

線形代数統論演習

担当 丹下 基生 : 研究室 (B715) mail(tange@math.tsukuba.ac.jp)

第3回 ('16年5月6日 : Keywords ... f -不変部分空間、基底の延長、同型写像)

今日の課題.

1. 同型写像 . 2. 部分空間

まとめ.

3-1. f -不変部分空間 ... $f : V \rightarrow V$ を線形変換とする . このとき、 $W \subset V$ が f -不変部分空間であるとは、 W が V の部分空間であって、任意の $v \in W$ に対して $f(v) \in W$ となることである .

3-2. 商空間上の線形写像 ... $W \subset V$ を部分空間とする . 線形写像 $f : V \rightarrow V$ が自然に $\tilde{f} : V/W \rightarrow V/W$ を誘導するためには、 W が f -不変部分空間であることである . 写像が自然に誘導するとは、

$$\tilde{f}([v]) = [f(v)]$$

となることである .

A-3-1. [同型写像]

次のベクトル空間において、同型写像 $F : V \rightarrow W$ をつくれ .

(1) $V = \mathbb{R}^4, F({}^t(1, 1, 1, 1)) = {}^t(1, 0, 1, 0), F({}^t(1, 1, -1, -1)) = {}^t(1, 1, 0, 0)$

(2) $V = \mathbb{R}^4, F({}^t(1, 0, 0, 1)) = {}^t(1, -1, 1, -1)$

(3) $V = \mathbb{R}[x]_2, F(x + 2x) = x + x^2, F(1 + x + x^2) = 1 - x + x^2$

(4) $C(\mathbb{R}),$ 偶関数 f に対して $F(f(x)) = f(1 - x)$

A-3-2. [同型写像]

ベクトル V とその部分空間 W を考える . このとき、数ベクトル空間から V/W への適当な同型写像を構成せよ .

(1) $V = \mathbb{C}^4, W = \langle (1, 1, 1, 0), (1, 2, 0, 0) \rangle$

(2) $V = \mathbb{C}^3, W = \langle (1, 0, 1), (1, -2, 0) \rangle$

B-3-1. [数列からなるベクトル空間]

次の漸化式からなる数列のベクトル空間における基底を求めよ .

(1) $s(\mathbb{C}), a_{n+2} = 2a_{n+1} - a_n$

(2) $s(\mathbb{C}), a_{n+2} = 4a_{n+1} + 5a_n$

B-3-2. [数列]

a_n を $a_{n+2} = 2a_{n+1} - 3a_n$ を満たす実数列とする . このとき、 $b_n = a_{n+1}a_n$ が満たす漸化式を求めよ .

B-3-3. [有限生成ベクトル空間]

有限生成ベクトル空間には必ず、有限個の基底が存在することを示せ .

B-3-4. [無限生成ベクトル空間]

区間 $[0, 2\pi]$ において、 $f(0) = f(2\pi)$ を満たす連続関数全体の成すベクトル空間を $C(S^1)$ とする。この $C(S^1)$ は有限生成でないことを示せ。

(ヒント：三角関数のなす部分ベクトル空間が有限生成でないことを示せ。)

B-3-5. [部分ベクトル空間の次元]

$W \subset V$ を有限次元ベクトル空間 V 内の部分ベクトル空間とする。このとき、 $\dim(W) \leq \dim(V)$ であることを示せ。さらに、 $\dim(W) = \dim(V)$ なら、 $W = V$ であることを示せ。

B-3-6. [直和]

次のベクトル空間 V_1, V_2 は V の和として書けるか？もし書ければ証明を、そうでない場合はそう書けないベクトルを探せ。

$$(1) V = \mathbb{C}^3, V_1 = \left\{ \mathbf{v} \in V \mid \begin{pmatrix} 2 & 3 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \end{pmatrix} \mathbf{v} = \mathbf{0} \right\}, V_2 = \left\{ \mathbf{v} \in V \mid \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \end{pmatrix} \mathbf{v} = \mathbf{0} \right\}$$

$$(2) V = \mathbb{R}[x], V_1 = \{f(x) \in V \mid f'(x) = f(x)\}, V_2 = \{f(x) \in V \mid f'(x) = 0\}$$

$$(3) V = \mathbb{C}^3, V_1 = \langle {}^t(1, 2, -1), {}^t(0, 1, 1) \rangle, V_2 = \langle {}^t(1, 1, -2) \rangle$$

B-3-7. [共通部分のベクトル空間]

次の2つのベクトル空間の共通部分のベクトル空間の基底を求めよ。

$$(1) V = \mathbb{C}^4, V_1 = \left\{ \mathbf{v} \in V \mid \begin{pmatrix} 1 & 5 & -2 & 1 \\ 0 & 1 & 0 & 1 \end{pmatrix} \mathbf{v} = \mathbf{0} \right\}, V_2 = \left\{ \mathbf{v} \in V \mid \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 & -1 \\ -1 & -4 & 3 & -2 \end{pmatrix} \mathbf{v} = \mathbf{0} \right\}$$

$$(2) V = \mathbb{C}[x]_2, V_1 = \langle 1 + x + x^2, 1 - x + x^2 \rangle, V_2 = \langle 1 + x^2, x + x^2 \rangle$$

$$(3) V = \mathbb{C}[x]_3, V_1 = \langle 1 + x, x + x^2 \rangle, V_2 = \langle 1 + x, x + x^2 \rangle$$

B-3-8. [補空間の構成]

複素ベクトル空間 \mathbb{C}^2 のスカラーを実数に制限することによって、 \mathbb{C}^2 を実ベクトル空間とみなすことにする。

1. $\dim(\mathbb{C}^2) = 4$ を示せ。

2. $\mathbb{C}^2 = W \oplus \mathbb{R}^2$ をみたす \mathbb{C}^2 の部分空間 W の基底 x_1, x_2 を1組与えよ。

C-3-1. [同型写像]

次の条件を満たす線形写像 $V \rightarrow W$ として同型写像を構成せよ。

$$(1) f: \mathbb{R}[x]_3 \rightarrow \mathbb{C}^4, F(1 + x + x^2 + x^3) = (1, 0, 0, 0), F(1 + x^3) = (0, 0, 0, 1)$$

$$(2) f: C(\mathbb{R}) \supset \langle \sin(x), \cos(x) \rangle = V \rightarrow V, F(\sin(x) + \cos(x)) = \sin\left(x - \frac{\pi}{2}\right)$$

C-3-2. [不変部分空間]

$V = \mathbb{R}[x]_3$ とする。 $v_1 = 1 + x + x^2, v_2 = x - x^3, v_3 = 1 + x - x^2, v_4 = x + 2x^2 + x^3$ とする。 $f: V \rightarrow V$ を線形写像とする。 $W = \langle v_1, v_2 \rangle$ とする。 $f(v_1) = 1 + ab + (1 + b + ab)x + (1 + ab)x^2 - bx^3, f(v_2) = a + (1 + a)x + ax^2 - x^3$ とすると、 W は f -不変部分空間であることを示せ。

C-3-3. [同型写像]

V を n 次元複素ベクトル空間とする。線形同型写像 $F: \mathbb{C}^n \rightarrow V$ を選ぶことと、 V 上に基底を選ぶことは同値であることを示せ。

ホームページ：<http://www.math.tsukuba.ac.jp/~tange/jugyo/16/senzoku.html>

(主にプリントのダウンロード用)

blog：[\(http://motochans.blogspot.jp/\)](http://motochans.blogspot.jp/)

(授業内容など)

相談、質問などいつでも承ります。アドレスはプリント1ページ目上部。